

Quarterly Journal of Seismology

Vol. 43

報 時 震 驗

第 43 卷

昭 和 54 年

氣 象 庁

Published by the Japan Meteorological Agency
Tokyo

1979

第 43 卷 総 目 次

第 1~2 号

浜田 信生：地球潮汐歪と松代地震発生の関係について	1
市川 政治：気象庁における震源要素新計算法と走時表	11
気象庁地震課・石廊崎測候所・大島測候所： 1978年1月14日伊豆大島近海の地震調査報告	21

第 3~4 号

市川政治：三陸沖の地震の震源分布	59
竹村行雄・松本 久：国内データによる遠地地震の震源決定について	67
仙台管区気象台：1978年2月20日の宮城県沖地震調査報告	75
青森地方気象台・八戸測候所：1978（昭和53）年5月16日青森県東沿岸地震の調 査報告	93
石廊崎測候所：1978年11月23日の伊豆半島東部の地震による被害調査報告	103
二瓶信一：1978年9月13日の小笠原・母島付近の局発地震について	107
気象庁地震課：1978年1月14日伊豆大島近海の地震調査報告（補遺）	109

Vol. 43 Contents

Nos. 1~2

N. Hamada: On the Relation Between Earth Tidal Strain and Matsushiro Earthquakes	1
M. Ichikawa: A New Subroutine Program for Determination of Earthquake Parameters and Local Travel Time Tables for Events near the Southern Kurile Trench	11
Seismological Division, J. M. A., Irozaki Weather Station, and Oshima Weather Station: Report on the Earthquake of January 14, 1978, Near Izu-Oshima	21

Nos. 3~4

M. Ichikawa: Determination of Hypocenters of Earthquakes Occurring Off the East Coast of Northern Honshu	59
Y. Takamura and H. Matsumoto: Determination of Hypocenter of Distant Earthquakes Using Local Data	67
Sendai District Meteorological Observatory: Report on the Earthquake of February 20, 1978, Off Miyagi Prefecture	75
Aomori Local Meteorological Observatory and Hachinohe Weather Station: Report on the Earthquake of Eastern Coast of Aomori Pref., May 16, 1978	93
Irozaki Weather Station: Minute Investigation on the Earthquake of East of Izu Peninsula, November 23, 1978	103
S. Nihei: Local Earthquake of Hahajima, Bonin Islands, September 13, 1978	107
Seismological Division, JMA: Report on the Earthquake of January 14, 1978, Near Izu-Oshima (Supplement)	109

験震時報投稿規定および投稿の手引き

験震時報は全国気象官署の職員が行なった気象庁の地象業務に関連する分野の研究・調査を掲載し、原則として年4回刊行する。内容は論文・報文および雑報である。論文は新しい知見を含むもの。報文は論文と比較して調査・資料的傾向のあるもの。雑報には寄書・短報・速報・討論・著作目録・正誤表を含む。

原稿は投稿規定と投稿の手引きに従って作成する。不備な原稿、次の投稿規定に沿わぬ原稿は返却することがある。

1. 他誌に掲載したものをそのまま再投稿してはいけない。また、他誌に掲載したものの続編形式にはしない。
2. 原稿の本文は和文とする。和文は原稿用紙に読みやすく書く。アブストラクト等の英文はなるべくタイプライターを使う。
3. 表題は和文で書く。
4. 著者名は疎字とローマで略さずに書く。所属官署名は和文で書く。
5. 論文には英文アブストラクトを付ける。英文アブストラクトは別紙に書く。
6. 図はトレーシングペーパーに墨や製図用インクではっきりと描く。また、赤・黄等の紙や方眼紙、リコピーの用紙およびボールペン・サインペン等を使わない。
7. 図表の表題・説明は論文の場合原則として英文で、その他の場合和文で書く。図の表題・説明は別紙にまとめて書く。
8. 本文の末尾における参考文献は、原則として次の形式に従って列記する。

雑誌——著者名(年):表題, 雑誌名, 巻数, 号数(省略してもよい), ページ～ページ。

単行本——著者名(年):書名, 第何版, 発行所, 総ページ pp. 数。または引用ページ。

(例)

久野 久 (1958): 大島火山の地質と岩石, 火山, 第2集, 3, 大島特別号, 1~16.

Gutenberg, B. and C. F. Richter (1942): Earthquake Magnitude, Intensity, Energy and Acceleration, Bull. Seism. Soc. Amer., 32, 163~191.

竹内 均 (1966): 地球物理学 (坪井忠二編), 第1報,

岩波書店, 67~71.

Jeffreys, H. (1959): The Earth, 4th ed., Cambridge Univ. Press, 108~113.

9. 著者には別刷50部を無料で送付する。

10. 原稿送付先は気象庁地震課

原稿を作成するときは、次の投稿の手引きの各項の趣旨に沿うこと。また、原稿提出前には以下の各項に沿って必ず原稿を点検する。

1. 本文

- 1.1 編集・印刷の便宜上400字詰の原稿用紙を使う。
- 1.2 図表用のスペースを本文にあげておかない。
- 1.3 数式は2行取りに書き、数式の文書・記号をはっきりと説明する。
- 1.4 誤まりやすい英字・ギリシャ文字・ベクトル記号にはフリガナを付け、大文字・小文字の別を示す。添え字は判別出来るようはっきり書く。
- 1.5 暦年には原則として西暦を用いる。
- 1.9 人名の敬称は原則として省略する。

9. 表題・アブストラクト・はしがき

- 2.1 表題は具体的に内容をよく伝えるものであること。
- 2.2 英文の目的・仮定・方法・結論等を明確に書き、次の諸点と留意する。④表題をそのまま使って第1行を書き始めない。⑤図・表・式・文献の番号を引用しない。⑥第三者の立場で書き、IやWeを用いない。
- 2.3 はしがきには、本文の目的・方法・意義・他の研究との関連等を書く。

8. 図表

- 3.1 図表の数は最小限にとどめる。
- 3.2 図表のそう入箇所を本文の欄外に記入する。
- 3.3 図表中の文字・記号等をもれなく説明する。また、必要な単位は必ず付ける。
- 3.4 製版後、図の修正に不可能だから注意する。
- 3.5 原図の大きさは印刷時の2~3倍(線拡大率)くらいがよい。図に記入される英字・数字は印刷時の大きさが1mm、漢字の場合は1.5mm以下にならぬようにする。

昭和54年3月31日発行

編集兼発行人

気 象 庁

東京都千代田区大手町1丁目3番4号

印刷所

大東印刷工芸株式会社

東京都中央区月島4丁目6-3号